

教科名	算数科
-----	-----

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・数が認識できるように個別指導をする。 ・計算力をつけたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の差に対応した習熟度別少人数指導と個に応じた指導を行う。 ・具体物を操作することで、数量に対する感覚を磨いていけるよう、教材・教具を工夫する。 ・計算カードに取り組む時間を設ける。 ・個別指導の場を増やし、確実に理解を深められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正確な演算力を身に付けさせるため、具体物操作、反復練習を重視する。 ・理解に時間がかかる児童には、個別に課題を与えて理解力の向上を図る。 ・タブレットPCを活用し、ドリル学習を充実させる。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の差に応じた指導をしたい。 ・具体的な経験を多く積ませたい。 ・長さやかさ、時刻と時間についての経験を増やす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の差に対応した習熟度別少人数指導と個に応じた指導を行う。 ・個別指導の時間を増やし、理解が確実に深められるようにする。 ・具体物を提示するなどして、算数的活動の経験を増やす。特に時間については、学校生活の中で学習内容を生かすようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を児童の学力に応じて変えていく必要がある。 ・基礎的な問題の反復練習を計画的に取り入れる。 ・個に応じて発展的な問題を用意する。 ・必要に応じて放課後に短時間の補習を行う。 ・タブレットPCを活用し、ドリル学習を充実させる。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的な学習態度を継続させたい。 ・コースによって補充問題を解く時間の確保が難しい。 ・わり算やグラフの学習では、倍の学習が入っている。これを5年生の割合の初期指導と位置づけて学習の積み上げを図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・達成感や充実感を感じることができる学習展開を工夫していく。 ・単元初期の学習展開を工夫し、児童やコースの実態に応じて効率的に学習を進め、補充問題を解く時間を確保する。 ・倍の考えの指導は、単元の内容との関連がつかみにくく児童が戸惑うことが大いに予想される。単元内の学習だけでなく、年間を通じて繰り返し学習できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の学力に応じて学習課題を工夫していく。 ・必要に応じて放課後に短時間の補習を行う。 ・タブレットPCを活用し、ドリル学習を充実させる。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・計算や作図の方法のみを会得させるのではなく、仕組みや性質を理解させる授業を行いたい。 ・主体的に学習に取り組む姿勢を生かしながら、学力差に応じて習熟や体験の時間をより確保する必要がある。 ・書字に時間がかかる児童などへの、個別の課題に対応したい。 ・類題を解いたり、文章問題を図や表で解決したりする機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態や単元に応じて、習熟度別の編制方法を工夫する。 ・実態把握を継続的にを行い、それに基づいて支援の仕方を工夫する。また、より実態に即した学習展開をする。 ・具体的に操作できるような教材教具を工夫し、授業を組み立てる。 ・書字に時間がかかる児童は、習熟度別編成の際に、時間が確保しやすいコースになるようにした上で、ノートの補助プリントなどを準備する。 ・文章問題の解決場面以外でも図や表を用いて解決するようにし、児童が図や表を活用する時間を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を各グループの児童の実態に応じて変える。また、個人の理解度に合わせた課題を提供する場面を設ける。 ・生活と関連づけて理解を深めるようにする。 ・理解を補い、必要に応じて放課後に短時間の補習を行う。 ・タブレットPCを活用し、類題に多く触れさせる。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・単元直後の定着率だけでなく、幅広く既習事項の定着率を把握し、それを指導方法に生かしたい。 ・学力や意欲の差を補いながら問題解決場面で交流させたい。 ・習熟度別指導を生かして、単位当たり量や速さなどの抽象的な概念の見方・考え方を身に付け活用させたい。 ・計算の手順や内容も複雑化するので、計算する力をきちんと習得させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の定着を図るために、視覚に訴える教材教具を工夫したり、操作活動を取り入れたりしていく。 ・習熟度別指導では児童の交流を意識的にを行い、学び合いから様々な視点での考え方に触れるようにする。 ・授業の中で問題練習を着実にを行うようにする。特に速さなどの異種の二つの量の割合についての問題が着実に解けるようにする。 ・かけ算割り算がスムーズにできるよう練習を多くし、積や商の見通しをもてるようにする。九九のように繰り返し練習し、確実な定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の理解度に合わせた課題を提供する場面を多くし、一人一人が意欲をもって取り組めるようにする。 ・理解に時間がかかる児童には、個別に課題を与えて理解力の向上を図る。 ・必要に応じて放課後に短時間の補習を行う。 ・タブレットPCを活用し、復習を含めたドリル学習を充実させる。

<p>第6学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元直後の定着率だけでなく、小学校の学習内容全般の定着率を把握し、指導方法に生かしたい。 ・個人差に対応した学習展開や個別支援を工夫する必要がある。 ・理解の時間、問題解決場面での交流時間、問題練習の時間をバランスよく確保していく必要がある。 ・習熟度別指導を活用して、個々の児童の学力や意欲、態度に合った授業を展開したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決するために必要な公式などを理解する段階で、考え方に重点をおく課題設定をする。 ・途中式や途中計算を消さないようにさせることで、考えの筋道を自分で振り返ることができるようにする。 ・学習形態（ペアやグループ）に変化をもたせたり、発表方法を工夫したりして、自分の考えを説明する場面を意図的に設定する。 ・年度末の復習を視野に入れながら、単元学習の時間を必要十分に調整していく。 ・文章問題の解決場面以外でも図や表を用いて解決するようにし、児童が理解したり考えを表現したりする際に、図や表を自主的に活用できることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の習熟度に合わせた課題を提供する場面を多くする。 ・発展的な課題として、学習内容を活用した問題づくりを設定し、交流活動を活性化させる。 ・補充コースでは学習する人数を少なくし、個別指導の時間を確保できるようにする。 ・必要に応じて放課後にも短時間の補習を行う。 ・タブレットPCを活用し、6年間の学習内容の復習を含めたドリル学習を充実させる。
-------------	--	---	--